

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL. 025-234-6781  
~6783



## 特集 《新年度事業》

経営安定・生産性向上による新潟県畜産の発展を目指して



新潟県畜産協会認定



新潟県畜産協会認定



### 目次

- ◆ 特集 新年度主要事業の概要  
経営安定・生産性向上による新潟県畜産の発展を目指して
  - 最近の畜産経営状況と新年度主要事業 ..... (2)
  - 新年度に新規・拡充する事業 ..... (3)
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場を認定 ..... (4)
- ◆ にいがた畜産女子会のページ ..... (5)
- ◆ 新年度事務局体制の紹介 ..... (6)
- ◆ 新入職員の紹介 ..... (6)
- ◆ 会議開催予定 ..... (6)
- ◆ 声のコーナー ..... (7)(8)
  - 「子牛のお母さん2年生」  
肉用牛経営：魚沼市 阿部 恵梨
  - 「甘豚の美味しさを広めていきたい」  
養豚経営：新潟市 近藤 香澄
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより ..... (8)
  - 刈羽村：鎌田養鶏株式会社
- ◆ 編集後記 ..... (8)

協会のホームページをリニューアル!!

新しいHP <http://niigata-chikusan.jp/>

(スマートフォンからも見やすくなりました)



# 畜産経営の情勢と平成30年度主要事業の概要



## 1 最近の畜産経営の情勢

### ● 畜種別の経営概況

経営別区分	経営の現状	経営概況	経営上の課題
酪農経営	乳価の安定と販売子牛の価格が堅調		・後継牛の導入価格高騰
肉用牛繁殖経営	子牛販売が堅調を維持		・規模拡大、後継牛の導入価格高騰
肉用肥育経営	肉専用種(和牛) 交雑種 乳用種 枝肉価格の下落、生産コストの上昇 (子牛価格最高値時に導入した肥育牛の出荷がピークを迎える。)		・出荷牛の収益性低下
			・出荷牛の赤字額拡大の恐れ
養豚経営	豚価が高価格帯で推移		・輸入豚肉との競合による豚価の先行き懸念 ・PED、PRRS等の慢性疾病への対応
養鶏経営	堅調な卵価が継続		・鳥インフルエンザに「警戒継続」

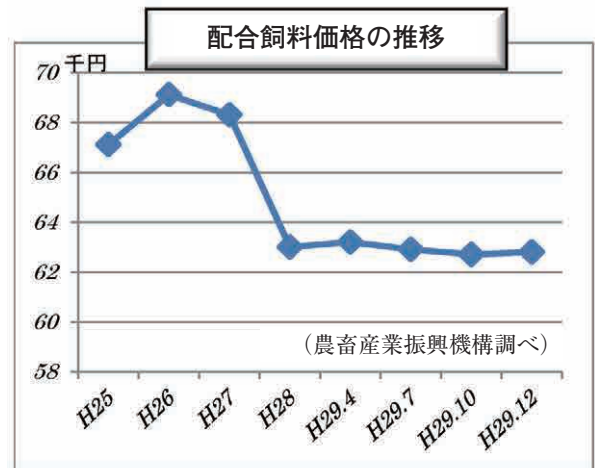
### ● 配合飼料価格は落ち着いた動き

平成27年春以降、現在まで緩やかに低落して来たことは、全ての畜産経営にとって一番のプラス材料となっている。

・肉用牛肥育用配合飼料の小売価格（トン当たり、消費税込）

H27年2月① (直近の高値)	H29年12月②	価格差①－②
70,640円/t	62,750円/t	7,890円下落(▲11.2%)

※和牛肥育1頭当たり約4万円のコスト引き下げとなる。  
(肥育期間に配合飼料5t使用計算)



## 2 平成30年度に実施する主な事業

### 経営安定対策

- ・肉用子牛生産者補給金制度  
(付帯事業：肉用牛繁殖経営支援事業)
- ・肉用牛肥育経営安定特別対策事業  
(牛マルキン：補填率引上げ)

### 畜産女性の組織化と地域リーダー育成

- ・にいがた畜産女子会事務局
- ・畜産関係団体調整機能強化事業

### 家畜衛生対策の徹底

- ・養豚農場PRRS撲滅支援対策事業
- ・自衛防疫体制強化推進事業
- ・獣医師確保修学資金貸与事業（新規）

### 生産性向上・収益力強化対策

- ・畜産経営改善指導事業
- ・肉用牛経営安定対策補完事業
- ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業
- ・優秀畜産表彰事業

### 消費者の信頼確保

- ・畜産理解増進事業

### 安全・安心の畜産物生産の推進

- ・畜産安心ブランド生産農場認定事業
- ・農場HACCP認証支援地域強化促進事業

# 平成30年度に新規又は強化・充実する事業



## 1 新たに実施する事業

事業名		事業内容等
獣医師の卵を支援します。	獣医師確保修学資金貸与事業 (平成30年度計画事業費 4,700千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の新潟県畜産業を支える産業動物獣医師となる人材を確保するため、本県で産業動物獣医師又は新潟県職員畜産獣医師として就業を希望する獣医学生に対し、卒業まで修学資金を貸与する。</li> <li>・月額：国立大学10万円 私立大学18万円</li> </ul>

### 〔近年の新卒獣医師就職状況〕

- ・毎年、11国立大学、5私立大学で約千人の新卒獣医師が誕生し、近年は女子の割合が多い。
- ・就職先は小動物診療が40%、公務員24%、産業動物12%等であるが、就職地域は偏在し、都会が優先され、地方の就職希望者は極めて少ないのが現状。
- ・本県の県職員獣医師は常に欠員状況にあり、産業動物では無獣医師地区が拡大している。



防疫指導をする県家畜保健衛生所の獣医師

## 2 強化・充実する事業

事業名		事業内容等
牛マルキン・補填率アップ	肉用牛肥育経営安定特別対策事業 (平成30年度補填計画額 239,000千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥育牛の収益性が悪化し、粗収益（販売額）が生産コストを下回ったときに赤字補填する事業。</li> <li>・和牛子牛価格の最高騰時に導入され、今後出荷を迎える肥育牛の収益性が懸念。</li> <li>・国は平成30年度限りの措置として補填率を現行「8割」を「9割」に引上げ。</li> </ul> <p>(平成30年4月販売牛から適用)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(粗収益－生産コスト)×補填率 = 補填金交付額 (差額[赤字額10万円の場合])</p> <p>変更前 補填金 8万円 → 変更後 補填金 9万円</p> <p>ひと安心</p> </div>

事業名		事業内容等
更なる飛躍、女子力アップ	にいがた畜産女子会事務局運営 (平成30年度計画事業費 198千円)	<p>平成29年度誕生の畜産女子会の更なる発展に向けて！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容の充実</li> <li>・会員個々のスキルアップ</li> <li>・組織の強化 (組織の拡大⇒新たな会員の勧誘)</li> </ul>



畜産女子会発会式

事業名		事業内容等
消費者目線で畜産及び県産畜産物をPR	畜産理解増進事業 (平成30年度計画事業費 1,979千円)	<p>畜産や畜産物に対する消費者の理解増進を図るための交流会等を開催するとともに、県産畜産物の消費拡大に向けて！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの開催</li> <li>・畜産フェスタ2018への参加</li> <li>・第20回協同組合まつりへの参加など</li> </ul>



昨年度の協同組合まつり

# 畜産安心ブランド生産農場認証式・交流会開催

## 新たに2農場が認定、認定農場は過半数を維持

今年度は養豚経営、採卵経営の2法人から家畜保健衛生所に認定申請書類が提出され、12月14日に楠原新潟大学名誉教授を委員長とする認定委員会が認定を認めました。

平成30年2月21日、全農にいがた県本部ビル大会議室で、平成29年度畜産安心ブランド生産農場認証式が開催され、2農場に認定証が交付されました。

2農場の認定で2月21日現在247農場となり、県内の農場の50.3%と、過半数を維持しています。

認定農場を代表して(有)キープクリーンの小嶋力也さんが声明文を読み上げ、安全・安心な畜産物の生産に励むことを誓われました。

### 認定農場数と認定率 (平成30年2月21日現在)

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	82	74	54	22	15	247
(%)	(39)	(66)	(49)	(58)	(75)	(50)



認定された小嶋様(左)、五十嵐様

## 農場HACCPとJGAP【家畜・畜産物】を学ぶ ～生産者交流会～

認証式に引き続き開催された生産者との交流会では、楠原新潟大学名誉教授を座長に「安全・安心な畜産物を提供するための生産現場での取り組みと今後の展開について」をテーマに2名の方から講演していただきました。

講演は最初に公益社団法人中央畜産会衛生指導部長守永美夫様から「農場HACCPとJGAP【家畜・畜産物】について」と題し、自らが関わってきた農場HACCPとJGAPの違い、JGAP取得までの方法等、詳細に説明がなされました。

次いで、「新潟県で初めて取得した農場HACCP認証農場として」と題し、新発田市の酪農家めおとファーム齋藤栄毅氏から、認証取得に至った経緯、取得して変わったこと、今後の考え方等、講演され、「実際に取得するまでの過程が重要」で、「飼育管理がマニュアル化した」とのメリットを強調されていました。

県内では3農場が農場HACCP認証に向けて取り組んでおり、第2、第3の取得農場が続くことが期待されます。



守永先生



齋藤先生



講演後の熱心な質疑

# 参加しませんか？ 畜産女子、募集中です！

平成29年9月13日に、畜産に携わる若手女性が組織した「にいがた畜産女子会」（事務局：（公社）新潟県畜産協会 会長：緒形ゆかりさん）が誕生しました。



にいがた畜産女子会は、平成27年から交流会などを行ってきた女子会が組織化したものです。現在（2月末）の会員は18名。畜産農家の女性だけではなく、獣医師や関係団体職員など、様々な職種に携わる女性が参加しています。

そんなにいがた畜産女子会は、より多くの仲間と交流を深めるために、会員を募集中です。今回は、会の雰囲気を知っていただくために、組織化前も含めて、活動をご紹介します。

## これまでの女子会活動

### ① ガーデニング教室（平成28年10月）

ガーデンカフェかものほし（新潟市北区）で開催しました。寄せ植え作りとランチ会をワイワイガヤガヤと楽しみました。



ハーブの香りを確認中      ランチしながらおしゃべり

### ② 他の女子グループとの交流（平成29年7月）

若手農業女子グループ「サークルneco」役員の方と、女子グループの活動について情報交換。活動

や運営の具体的なお話が聞けて勉強になったほか、農業に携わる女子ならではの面白話が話題に上るなど、ざっくばらんなおしゃべりで盛り上がりました。

### ③ 消費者向けイベントへの参加

10月22日に、新潟市産業振興センターにて開催された第19回協同組合まつり（主催：新潟県協同組合間提携推進協議会）に参加し、女子会紹介パンフレットや、会員の神田麻子さん（阿賀野市「みるばす」）のアイスクリーム・ジェラートを来場消費者に配布。消費者の声を聞いたり会員仲間と協力して作業したりと、楽しいひとときになりました。



アイス等の配布の様子。長蛇の列にびっくりしましたが、関係プレーで配布を終えました！

## 畜産女子のみんなと楽しく活動しませんか？

にいがた畜産女子会は、これからも会員同士で和気あいあいと交流しながら、様々な活動を通して、畜産を盛り上げていきたいと考えています。

一緒に楽しく活動していく畜産女子をいつでも歓迎しております。「参加したい！」の方も、「まずは話を聞くだけ・・・」の方も、お気軽に畜産協会までお問い合わせください。お待ちしております！



連絡先は  
コチラ！

（公社）新潟県畜産協会

担当：佐藤紫織、鈴木奈美子

電話：025-234-6782

E-mail：shien@ae.wakwak.com

## 今年度の事務局体制を紹介します。

### ● 人員配置

課	職名	氏名	備考
	事務局長	中林 大	衛生指導課長兼務
総務課	課長 係主	鈴木 哲也 鈴木奈美子 青木 貴寛	嘱託
業務課	課長補佐 技師	佐藤 栄治 谷川 昌行 佐藤 紫織 真保 春紀	嘱託  新採用
衛生指導課	課長 非常勤嘱託 事務補助員	中林 大 鍋谷 政広 關 朋子	嘱託・獣医師 嘱託・獣医師

・石田由紀子、斎藤由美の両事務補助員は退職しました。

### ● 各課の所管業務

課	主な担当業務
総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 庶務及び経理に関する事務</li> <li>* 畜産経営安定対策業務（補填）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用子牛生産者補給金制度</li> <li>・牛マルキン</li> </ul> </li> </ul>
業務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 畜産経営コンサル業務</li> <li>* 畜産安定に関する指導業務</li> <li>* 畜産クラスター（機械導入）推進業務</li> <li>* 肉用牛経営安定対策に係る補助業務</li> <li>* 事務局運営に係る業務               <ul style="list-style-type: none"> <li>・にいがた和牛推進協議会</li> <li>・新潟県畜産振興クラスター協議会</li> <li>・にいがた畜産女子会</li> </ul> </li> </ul>
衛生指導課	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 家畜生産農場における自衛防疫強化に関する業務</li> <li>* 家畜伝染病の清浄化推進に関する業務</li> <li>* 牛疾病検査円滑化推進対策業務（旧死亡牛検査事業）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・農場HACCP認証支援に係る指導業務</li> <li>・畜産安心ブランド生産農場認定に係る業務</li> </ul> </li> </ul>

・各事業の担当者については、当協会ホームページをご覧ください。

## 新職員の紹介

4月1日採用の正規職員を紹介します。

今後皆様には何かとお世話になりますがよろしくご指導願います。



- ・業務課 技師
- ・真保 春紀(しんぼ はるき)
- ・新潟市南区在住
- ・趣味 「将棋」、「ギター」
- ・座右の銘 3手の読み

### 【抱負】

皆様、はじめまして！四月より業務課に配属されることとなりました、真保と申します。

幼い頃から旧白根市で暮らしており、田畑・畜舎のある風景というものになじみを持って育ちました。自分の育った景色を次の世代へつないでいけるように、皆様のお手伝いができたらと考えています。まだまだ未熟者ですが、日々精進して参りますので、どうかよろしくお願ひします。

### ★ 新年度初めの会議等開催予定 ★

日時	日時及び場所	参集先
平成30年度 事業推進会議	5月10日(木)13:30 「JA全農にいがたビル」	・関係機関 ・関係団体の 担当者
平成29年度 事業報告・決算 監査	5月15日(火)13:30 「JA全農にいがたビル」	・監事
養豚経営安定 対策事業説明 会	5月16日(水)13:30 「JA全農にいがたビル」	・関係団体の 担当者 ・生産者
にいがた和牛 推進協議会総 会	5月31日(木)15:00 「JA全農にいがたビル」	・推進協議 会会員
平成30年度 第1回理事会	5月25日(金)13:30 「JA全農にいがたビル」	・役員 (理事・監事)
平成30年度 定時総会	6月15日(金)13:30 「JA全農にいがたビル」	・会員

・開催日時等の変更の場合もあります。  
・その都度、開催案内等でお知らせ致します。



肉用牛経営

魚沼市  
阿部 恵梨



### 『子牛のお母さん2年生』

今年の1月、就農して2年目を迎えました。去年の9月には、自分の携わってきた牛が初めて市場に出荷されました。単語ひとつわからないところからのスタート。産まれてから9ヶ月育て、無事に出荷出来たという安堵と、帰ってから待っている子牛を、また次の市場に向けて育て上げなければならない使命感と、不安の入り交じった複雑な気持ちだったことを思い出します。

私が就農を決めたきっかけはふたつ。ひとつは、経営者が主人に代わるということ。もうひとつは、主人と一緒に過ごしたいという思いがあったということ。

中越地震から11年、主人は子供達の顔を見る前に南魚沼へ出勤し、帰宅するのは日が暮れてから。お産があれば牛舎に泊まり、雪が積もれば泊まりで、ほとんど家にいない生活を送ってきました。時間と手間、全てを牛に注いできました。その期間が主人を成長させ、今があるということも分かっているつもりです。そんな主人の姿をみてきて、これから先一緒に携わることができたら、今まで一緒に過ごしてこれなかった時間を、たとえ仕事だとしても一緒に過ごすことができるのなら、という思いが強くなりました。こんな思いから、一緒に携わっていく決心をしました。

「大丈夫なのか？」幾度となく問われました。私がやりたいと言ったことに反対することのなかった両親でさえ、「大丈夫なんか？あんたで務まるんか？」と。私だって大丈夫かなんて分かりませんが、迷いはありませんでした。

就農するまでの15年間、私は介護福祉士として勤めてきました。施設や病院で、様々な命と向き合ってきました。それとはまた異なるかもしれませんが、今までやってきた全てが糧になっていると実感しています。大好きだった仕事を辞めることはとても残念でしたが、今日に至るまで全力で務めてきたので、何の悔いもありませんでした。私が就農することを、「すごく残念。でも、頑張っって欲しい。」と言って送り出してくれた仲間達。様々な事情を知り、色々工面してくれた職場、本当に人に恵まれ送ってこられることの出来た15年、感謝しかありません。私は正直、主人がどんなことをしているのか、細かいことは知りませんでした。こんな仕事があるなんてことも知りませんでした。だから、今までお世話になった人達に、「こういうことをしている。」と、胸を張って伝えられる日がいつか来たら…とっていました。

去年9月、全共和牛競技会に出場させて頂き、最優秀賞を受賞したことで、新聞や農協の広報等に取り上げてもらい、様々な人達が喜んでくれました。以前の職場で、記事をナースステーションに貼ってある、と、人伝えに聞いたときは本当に嬉しかったです。今まで、この仕事のことを知らなかった人達に、少しでも興味をもってもらえたり、知ってもらうきっかけになったということは、何よりの収穫となりました。そして、勉強する機会がもられたこと、これから先の原動力になっていくであろう大会会場あの活気。きっと忘れることはありません。

就農して2年目。知識も経験もこれからです。今は、産まれてすぐから4ヶ月齢の子牛を任されていますが、主人なしではまだまだ出来ません。管理がしっかり出来るようになることが、これからの課題です。現在は、子牛の可愛さだけで頑張っていますが、知識を増やし、育てていく上での不安要素を少しずつ減らしていきたいです。

今日まで築き上げてくれたお義父さんお義母さん、中越地震から帰還するまでお世話になった方々への感謝の意を込め、夫婦二人三脚で務めていきたいと思います。

### ◆編集長のココが素晴らしい!!!



- ・阿部恵梨さんは「第11回全国和牛能力共進会（平成29年9月7日仙台市開催）」の審査競技会女性の部で全国一の最優秀賞に選出されました。新潟県では初めてのことで、日ごろの阿部さんの牛への愛情を持った観察力が発揮されました。
- ・次ページの近藤香澄さんの近藤畜産は平成28年度新潟県優秀畜産表彰で「優秀賞（新潟県知事賞）」を受賞し、更に、なんと平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会でご主人の近藤武志氏と共に最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞されました。家族で役割分担した経営が評価されたものです。

◎昨年度は日本一を2名の方が受賞されました。新潟県の畜産のレベルの高さの証明です。関係者の方々の日ごろのご努力に敬意を表します。

# \*\*\* 声のコーナー \*\*\*



養豚経営

新潟市北区  
近藤 香澄



## 『甘豚の美味しさを広めていきたい』

あまい！やわらかい！おいしい！！」これが主人の育てている甘豚を初めて食べた時の感想でした。それまで食べていた豚肉とこんなに違うなんて！とその時受けた衝撃は今でも覚えています。

夫の実家は養豚業を営む近藤畜産です。夫と出会った時は養豚ってどんな仕事！？と思うくらい私には馴染みのない職業でした。生き物相手に大変な仕事だろうとは思っていましたが、手伝うようになってからはこんなに内容も量もハードなんだ、と改めて感じています。

今の私の仕事は週2で義妹が営むガーデンカフェかものはしの手伝いをして、他の日は豚舎で夫の手伝いをしています。日報をつけたり子豚のワクチン接種や豚の移動の補助をしたりしています。豚舎で目にする、作業することはわからないことだらけで、毎回驚いたり戸惑うことばかりです。それでも今まで知らなかった豚の生態を見てかわいいな、とか面白いと思うこともあります。そして夫の仕事を見ている分カフェでお客様から甘豚料理を美味しいとの声を直接聞けるのはとても嬉しいです。これから春が来るとカフェの庭は色とりどりの花が咲きお客様が増えます。義妹の作った料理とスイーツで笑顔になるお客様を見るのは楽しみです、仕事への励みになります。

昨年全国発表会に同席させてもらった際に養豚で活躍されている女性と話げできたことはとても刺激になりました。また、にいがた畜産女子会にも参加させてもらうことになり、今後メンバーのみなさんと会う機会を利用しお話を聞いたりモチベーションを上げていきたいです。今は子供達が幼く働く時間や内容も制限されますが、育児と共に仕事も楽しみながら日々学び頑張りたいと思います。将来的には義母の仕事を引継ぎ、近藤畜産をサポートしていきたいです。

## 畜産安心ブランド生産農場だより

柏崎市：鎌田養鶏株式会社

鎌田養鶏は柏崎市西山町で採卵鶏約70,000羽を飼養しています。当農場は地産地消と動物愛護を経営理念に置き、地元に着した直売所によるブランド卵（養生卵）の直売や生産物の加工直売などを中心に6次産業化にも積極的に取り組んでいます。

当農場の最大の特徴としては経営理念の一つである動物愛護です。

平成19年に発生した中越沖地震により鶏舎が全壊し、鶏舎の全面改修を余儀なくされたことをきっかけに、一念発起「どうせ作るなら日本のどこにも無い鶏舎を作ろう」と当時では日本初であったアニマルウエルフェアに対応したエンリッチドケージを採用しました。日本では現在でもあまりなじみがありませんが、EUなどの国々ではもはやスタンダード化されている飼養方法で、動物福祉施設とも言えます。

簡単に説明すると、愛玩動物同様に産業動物にもその動物の習慣や習性に配慮し、飢えや渇き、痛みなどの苦痛を取り除き、あたり前なことですが生き物として扱うということです。

産業動物では利潤を追求するあまり、生き物ではなく、物として扱いがちですが、この施設導入により気づかされたことがたくさんありました。

生き物を生き物らしく飼育することにより、生産物のクオリティーは飛躍的に向上することです。

まだまだ、コストなど課題はたくさんありますが、今後もこの取組を通じて日本の産業動物の生活環境向上につながればと頑張っていきたいと思っています。



取締役  
立川有佳さん

## 編集後記



今年の冬はことのほか寒く大変でしたね。毎日の除雪作業、凍結防止への気遣い、心が折れそうな冬でした。雪国新潟と言っても平均気温は意外と高く、凍結被害には慣れていないものです。また、先日の猛烈暴風は凄風で、畜舎の被害が甚大だった地域もあり、お見舞い申し上げます。最近、天候が30年に1度とか、自然の想定外の激しさがあります。

しかし、冬の次には必ず春は来ます！この号が発行される頃は桜が満開でしょうか？桜を愛でる日本人の心は寒い冬を乗り切った春へのご褒美、喜びの集大成、何か期待でわくわくするものです。

当協会としても、新年度、新しい人を迎え、若干平均年齢が下がったスタッフで、「明るく元気に県産畜産物の消費拡大」を目指し、事業推進を邁進しますので、よろしく願います。

(中林 記)